

第3学年東組 図画工作科学習指導案

「ここにいるよ 附坂小の妖精」

学習指導者 毛利 二実子

1 学級（35名）の実態

（1）方法の習得を目指す自己調整力に関する実態

〔課題を設定する力〕

自己調整力に関する質問紙調査によると、図工の時間に、自分が分かっていることは何で、まだ分かっていないことは何かを考えることができている子供は29名で、他の項目に比べて低くなっている。自分を客観的に捉え、何をしたいか、自分のすべきことは何かという課題を設定しにくい様子も見られる。

（2）教科に関する学級の実態

教科に関する質問紙調査によると、図工の時間に「目当てをもって取り組んでいるか」という質問に対し、34名が「取り組んでいる」と回答し、全員が「目当てをもって取り組むことは大切だ」、33名が「自分がしようとしていることとしていないことを考えている」と答えており、その理由として「今日することがはっきりするから」や「もっと進化させようと思うから」などということを挙げている。しかし、授業の中では、一通り着色すると満足し、次にすることを自分で見付けて活動することが難しい子供や、教師に次にすることを尋ねる子供がおり、実際の姿とのずれが見られる。

本題材で習得させたい「課題を設定する方法」

題材のゴールと現在地を確認し、今日すべきことを決める

2 本題材で目指す『多様な他者と共に、自ら学びを進める子供』の姿

校内の様々な場所に合うポーズで撮影した写真を小さくラミネート加工した教師の作品の例を見て、『附坂小の妖精』になった世界は面白そうなどと興味をもって題材に出会った子供たちは、妖精（小さな自分）の視点で想像し、「妖精になれば、どんな場所でどんなことをしたら面白いだろう」などと、問いを見いだすだろう。そして、「附坂小の妖精図鑑をつくろう」という題材のゴールに向かい、どんな妖精にしたいかや、お気に入りの場所などのイメージや学習計画、本時すべきこと（したこと）を「マイ妖精メモ」に書く。ゴールに向かっての学習計画と現在地が位置付けられたそのメモを基に、例えば「前は妖精をつくれたから今日はお気に入りの場所をつくろう」と本時の課題を決め、「テープカッター一台の斜めのところを雪のすべり台みたいにしよう。綿をつけよう」などと、自分が選んだ場所やそこにあるものの形や色の感じを捉えて、必要な材料や用具、表し方などを選んだり試したりしながら解決方法を決め、妖精のお気に入りの場所をつくっていく。その際、友達の活動の様子を見て話し合ったり、学習支援アプリの記録を見返して変容を捉えたりして、「透明な糸でつるすと、本当に飛んでいるみたいだね」「妖精って不思議な力が使えると思っているから、浮いているようにしたかったんだ」「なるほど。私も不思議な感じにしたいから透明な糸を使ってちょっと浮いているみたいになろう」「いいね。綿ごと浮いているようにすると、面白いね」「本当だ。雪のすべり台よりもふわふわの雲に乗っているようにしよう。放課後、誰もいない図工室を雲に乗って探検している妖精はどうか」などと、思い付いた活動を造形的な視点でさらにつくりかえていく。そして、振り返り場面では、妖精や自分の選んだ場所が変容していく様子を写真で記録し、マイ妖精メモに位置付け、自分が上手くできたことやどこまで進んだかを捉えることができるようにする。このように、身近な場所を視点を変えて見つめ直し、想像を膨らませてつくりかえることの面白さを味わった子供たちは、今後の生活の中でも視点を変え、感性や想像力を働かせて身近な場所やものを見ることの面白さを感じ、生活の中の形や色などに豊かに関わろうとしていくだろう。

3 題材構成の工夫

(1) 【魅力的な目標を子供たちと共有】①⑤

題材の導入で、教師の作品の例を見せることで、「妖精って面白そう。集めて妖精図鑑にしたいな」という題材のゴールのイメージをもつことができるようにするとともに、興味をもって題材と出会えるようにする。「つくった図鑑を他の学年に紹介したい」と意欲を高めた子供たちは例えば、「図工室の妖精は、図工が得意で不思議な感じにしようかな」などと、学習への意欲をもつだろう。その後、「妖精をつくろう」「妖精のお気に入りの場所にしよう」「図鑑をつくるために妖精カードをつくろう」などと、課題を設定し、そのために必要なことを造形的な視点で考え、自分で学習計画を立てていく。

(2) 【子供が自ら選択して、学びを進める場の設定】②～⑦

妖精がどのような場所で何をしているかを想像して、場所やそこにあるものをどのように生かしてつくりかえていくかということを計画した「マイ妖精メモ」を基にし、本時の課題や解決方法を自分で決めるようにする。そして、材料や用具を自分の表し方に合うように、必要なものを選択して持ち運べるようにしておく。学習支援アプリで撮影しながらその変容を確認したり、友達と交流したりしながらつくりかえることができるようにすることで、自ら学びを進めていくことができるようにする。

(3) 題材計画と方法の習得の段階に合わせた手立て (本時 3/7)

次	学習の流れ	手立て
一	<p>① 「小さな自分」になって面白い場所を見つけよう</p> <p>教師の作品の例を見て、本題材についてのイメージをもつ。「妖精」とはどんなイメージかを話し合う。また、図工室や家庭科室、図書室、階段といった場所を「小さな自分」の視点で見て回り、よいと思ったところで何をしていると面白いかを想像する。「みんなの妖精を集めて附坂小の妖精図鑑をつくろう」という題材のゴールを設定し、どんな場所にするか、いつまでに何をやるかの計画を立てる。</p> <p>②③④ ○○の妖精をつくろう 妖精のお気に入りの場所にしよう 妖精カードをつくろう</p> <p>子供たちが自分で各活動にかかる時間配分を考え、自分に合った課題を設定し、解決していく。まず、どんな場所で何をしているか想像し、ポーズを考え、撮影する。自分のイメージしたものになるように形や色を選びながら装飾し、妖精をつくる。次に、メモを基に妖精を選んだ場所に置き、捉えた形や色の感じ、イメージなどから、材料などを選びお気に入りの場所をつくる。自分で選んだお気に入りの場所が変化していく様子を学習支援アプリで記録し、確認したり、友達と交流したりしながら、つくりかえていく。そして、学習支援アプリを活用し、自分の妖精の解説カードをつくる。校内の各場所を巡り、友達の作品を鑑賞し、「妖精図鑑(屋内編)」をつくり、その面白さを感じる。また、屋外のどんなところに妖精が出現すると面白いかを考え、次の活動について意欲を高める。</p>	<p>【マイ妖精メモ】①～⑦</p> <p>認知①②時間目には、教師がつくった「マイ妖精メモ」の例を見せ、ゴールに向かうためにどこまで進んだか(現在地)を確認すると今日すべきことが見付けられることを教示する。</p> <p>想起③④時間目には「どうすれば今日することを決められるのだったかな」と問い、「マイ妖精メモ」を確認して現在地とゴールから課題を設定することを想起できるようにする。</p> <p>活用⑤～⑦時間には手元のメモをいつでも自分で確認できるようにする。</p> <p>実感学習支援アプリを使用し、ゴールに向かって自分の現在地がどこかということが見やすいシートを作成することで写真を蓄積したり、これまでの経過や自分のイメージを振り返ったりしやすくする。</p>
二	<p>⑤⑥⑦ ○○の妖精をつくろう 妖精のお気に入りの場所にしよう 妖精カードをつくって「附坂小妖精図鑑」を完成させよう</p> <p>運動場、学級園、松風園、噴水周りなどの屋外で自分で時間配分を考え、自分に合った課題を設定し、解決していく。選んだ場所やそこにあるものを生かし、マイ妖精メモに計画した後、それを基に選んだ場所や材料を生かしながら、面白い場所になるように造形的な視点でつくりかえていく。屋内編と併せて、「附坂小妖精図鑑」を完成させる。</p>	

4 本時の学習

目 標	ゴールに向け、自分で計画した「マイ妖精メモ」を基に、本時の課題を設定し、材料や用具、表し方などを選びながら自分の妖精や場所などをつくり、つくりかえていくことができる。
--------	---

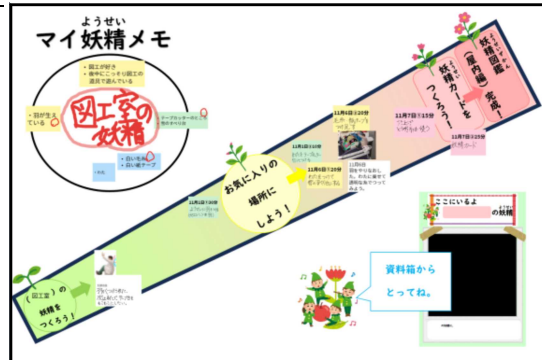
学習活動と手立て	主な子供の意識				
見 通 し	1 学習課題を設定する。 【マイ妖精メモ】	もう少しで図工室の妖精が完成するよ。	僕は図書室の本棚をお気に入りの場所にしていたところだよ。	今日は妖精を完成させて、お気に入りの場所づくりもするよ。	
		今日することをマイ妖精メモを見て確認しよう。		今日はお気に入りの場所を完成させるよ。	
行 動	2 「マイ妖精メモ」を基に、自分の進み具合に合わせて活動する。	〇〇の妖精を仕上げよう		妖精のお気に入りの場所にしよう	
		まずは飛んでいる妖精になるように、羽をつけよう。色セロハンでカラフルだけど透明な感じがいいな。	妖精が不思議な力を使っているようにしたいから、杖を持たせよう。爪楊枝に色を塗って魔法の杖をつくらう。	僕は、階段を一生懸命登っている様子を表しているよ。小さなはしごをつくろう。割り箸を使ってつくれるかな。	図書室の本棚のところで下の段からジャンプして遊んでいる様子を表したいから、スポンジでトランポリンをつくろう。
		なるほど。手に何かアイテムを持たせるのもいいな。私も杖をつくろう。もう少しで完成だ。	そうだね。でも羽もいいね。私は、妖精が完成したら、家庭科室の洗濯機のところで場所をつくるよ。	そうか。何か手に道具を持っているのと、クライミングの感じも出るね。ロープを持たせてみよう。	完成したよ。写真を撮って、この前の写真と比べてみよう。スポンジがトランポリンみたいに見えるよ。
		妖精が完成したよ。図工室のテープカッターのところに置いてみよう。	洗濯機のところは水が流れるから、スズランテープを裂いて水のような飾りを付けよう。	はしごの段のところをつくっていくのが難しいな。ちょっと友達に相談したいな。	妖精カードにどんな妖精かの解説を書いていこう。みんなはどんな場所になったのかな。
		今日の進み具合をマイ妖精メモに記録しよう。			
		振 り 返 り	3 本時の活動を振り返る。	自分のすることがはっきり分かっていたから予定していたところまで進んだよ。イメージに近づいているよ。	前回と比べて、妖精が完成しただけじゃなく、レベルアップしたよ。お気に入りの場所もいいアイデアが浮かんだよ。
マイ妖精メモに今日の位置を書き足そう。あと1時間で仕上げだよ。					

評 価	「マイ妖精メモ」を基に本時の課題として設定した妖精や、自分が選んだ場所の形や色の感じなどを捉え、材料や用具、表し方を選んだり、友達と交流したりしながら、妖精やお気に入りの場所をつくりかえようとしている。 【方法：発言、様相、記述】
--------	---

5 本時の詳細

～見通し～ **学習活動1** 【マイ妖精メモ】

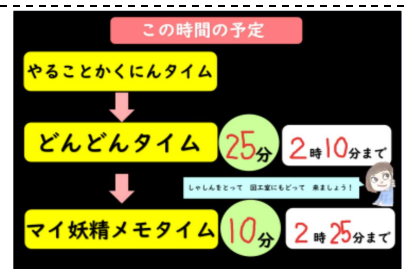
子供たちは、「妖精図鑑をつくろう」という題材のゴールに向かって、自分の現在地を確認できるような【マイ妖精メモ】を基に、自分のイメージが変わったり、付け加わったりした際にはカードを付け足したりしながら活動を進めている。本時は毎回の活動を写真で記録に残し、どんなことをしたかというカードとともに蓄積している【マイ妖精メモ】を見返し、その際、「どうすれば今日することを決められるのだったかな」と問い、【マイ妖精メモ】を使って、ゴールと現在地を確認するとよかったことを想起できるようにする。そして、「この前ここまでできたから、今日はここまでいくよ」と隣の友達に表出する時間を設け、自分の課題を明確にできるようにする。また、なかなかイメージがもてない子供に対して、成功体験を想起させたり、細かなスモールステップの課題を教師と共に考えたりするなどして自信をもって活動に取り組むことができるようにする。【マイ妖精メモ】で本時自分がすべきことを確認した後、どれだけ活動の時間が必要かを全体に問い、子供自身が活動時間を設定する時間を設ける。自分たちで活動時間を設定することで、主体的に活動に取り組むことができるようにする。



【教師のマイ妖精メモ例】

～行動～ **学習活動2**

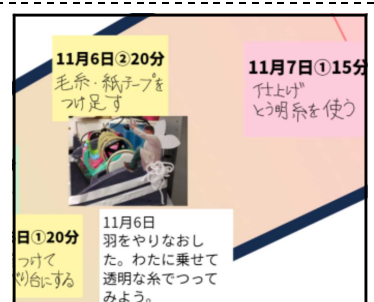
本時は活動場所が図工室、家庭科室、北校舎階段、図書室と個々によって異なる。そのため、学習支援アプリでこの時間の予定カードを送り、いつでも見られるようにしておくことで、本時設定した時間を確認しながら、活動ができるようにしておく。そうすることで、見通しがもちにくく、活動がなかなかやめられない子供に対しての支援として有効であると考え。また、自分の表したいものに合うように、材料や用具を選択し、使うことができるように、「ふわふわ」や「ひらひら」など、子供と共有した材料のイメージを表示した材料コーナーを図工室に設けておき、自分で必要な材料やその量を考えて、自由に使いやすくしておく。自分の活動に合った材料や用具、表し方を選び、試していく過程で、これまでの自分のつくったものの写真や、【マイ妖精メモ】を再度確認して軌道修正をしていく。そして、友達づくりつつあるものを見に行ってもよいことを共有しておいたり、材料コーナーを歩き来する中で、自然に友達の活動が目に入り、自然な鑑賞活動が行われたりすることで場所の特徴を生かした工夫のよさや飾りの形や色の面白さに気付いている姿や、友達の工夫を見ることで、さらに新しい工夫を思い付き、試しながら作りかえている姿を称賛することで、粘り強く試行錯誤できるようにする。そして、できつつある（できた）ものを撮影し、記録として残し、比較することで本時の活動のよさに気付けるようにする。



【この時間の予定カード】

～振り返り～ **学習活動3**

題材を通し、「ゴールに向かってどれだけ近付いたか」という観点での振り返りを行う。本時どんなことができたかを、【マイ妖精メモ】に記録し、ゴールまでどれだけ近付いたか、写真とともに、自分で位置付けることにより、前回との比較ができるようにし、どのくらいゴールに近付いたかを視覚的に記録することで、本時の学びを正確に捉えやすくする。本時、予定していたところまで到達できたか、またその理由を問い、ゴールと現在地を確認することで、本時すべきことをはっきりさせて本時の活動に試行錯誤しながら取り組むことができたことを価値付ける。また、思うように進まなかった子供には、次時は時間のかけ方を再度見直して計画をするように助言することで、意欲を喚起する。



【本時したことの記録】